ホーソンと the Picturesque

── 序　章 ──

松　山　信　直

I

ホーソンの文学が絵画的，ないしは視覚的描出と構成をふまえていることは，従来からさまざまな角度で論じられてきた．さらに，ホーソンが描写・構成・情況の絵画性・視覚性そのものだけに興味をもったのではなく，描写の絵画性・視覚性が，心理的・思想的・宗教的・哲学的・道徳的意味を芸術にする Symbolism になることに興味をもっていたことも論じられてきた．

しかし，ホーソンの作品が絵画的だ，視覚的だと言っても，「絵になる」「絵のようだ」「絵から抜け出たような」といったような，整然と整った甘美な美をあらわす絵を意味するのではない．ホーソンの描く絵には，シメトリーや優雅，繊細，穏やかな調和，Edmund Burke が "smooth" "polished" と形容し，"pleasure" にもとづくと言った美[1]はない．

Leland Schubert は *Hawthorne, the Artist: Fine-Art Devices in Fiction* において，ホーソンの構造，色，音，リズム，線，対照，多様性，動きなどの使い方を論じ，描写の視覚性・絵画性を指摘している．けれども Schubert はホーソンの絵の性格を深くほり下げようとはしなかった．たとえば，Schubert は "Minister's Black Veil" の冒頭のシーンをひいて，"The whole paragraph, well-rounded and complete, is a picture." と言い，これは "a good example of Hawthorne's graphic writing" だ

と指摘した[2]．このシーンは日曜の朝の教会の前である．着飾った人々が三々五々教会にやってくる．寺男は教会の入口で鐘の綱をひきながら，フーパー牧師の出てくる戸口を見ている．牧師の姿が見えるとそれが鐘の止む合図になった．このシーンには教会のポーチに入っていく人々の動きも示されており，さらに街通りからこのシーンに入りこんでくる人々もある．だからこの絵は“plastic”であり，“three dimensions”だと Schubert は論じるのだが[3]，この動きのある三次元的な絵の性格をそれ以上ほり下げようとはしなかった．

実は，この穏やかな日曜日の朝の教会の絵は，次に起ることをふまえて，わざと意図的に明るく平静・平穏な絵，“smooth”な美の絵として描かれているのである．と言うのは，衆知のように，自分の戸口に姿を現わしたフーパー牧師は顔に黒いヴェールをかけていたのであって，それが寺男を仰天させ，集った会衆を驚きと混乱におとしいれてしまうのである．この絵の“smooth”な美しさは，一瞬のうちにかき乱されてしまうのである．黒いヴェールを顔にたらした牧師を見た人々は，口々に次のようなことを言う．

> “Are you sure it is our parson?”
> “I can't really feel as if good Mr. Hooper's face was behind that piece of crape.”
> “He has changed himself into something awful only by hiding his face.”
> “Our parson has gone mad!”

黒いヴェールをかけた牧師を見た人々のこのような疑い，驚き，恐怖，不信といった入り組んだ反応が，平穏な日曜の朝の教会の絵を一変してしまう．“Smooth”な絵は，人々の烈しい混乱と動揺によって，“rough”な“rugged”な絵に転じたと言ってもよかろう．また，平和な“beautiful”な絵から，錯綜した“picturesque”な絵に転じたと言ってもよいで

あろう．ホーソンの視覚性・絵画性は，この隔絶的な対照，錯綜，多様性，驚異，疑惑，動揺，不信といった性格を持っているのである．

18世紀に起った趣味・美概念・芸術思想の変革は，“beautiful”“sublime”と並べて“picturesque”を重く評価した．壮大なもの，巨大なものに向い，畏怖・驚異といった心的状態に結びついた“sublime”と，“smooth”で“polished”な“beauty”とに対して[4]，“picturesque”が第三のカテゴリーとして，「絵にふさわしい」とか「絵のような」情景や性質をあらわす美概念としてとり入れられ，さらにそれ以上の意味の拡がりを与えられることになった．William Gilpin は“*Roughness* forms the most essential point of difference between the *beautiful*, and the *picturesque*[5]”と述べ，“roughness”と“ruggedness”が“picturesque”の性格だと考えた．18世紀の美学思想を研究した W. J. Hipple はこれを解説して，“In sum, roughness is more various; the taste for the picturesque is a taste for a greater measure of complexity and intricacy than either beautiful or sublime affords.”と述べている[6]．

また Christopher Hussey は，Gilpin に次いで“picturesque”を論じた Uvedale Price をふまえて次のように書いている．

> While the outstanding qualities of the sublime were vastness and obscurity and those of the beautiful smoothness, the characteristics of the picturesque were “roughness and sudden variation joined to irregularity,” of form, colour, lighting, and even sound.[7]

さらに Hipple によれば，Price はシメトリーは“beauty”には調和するが，“picturesque”には全く合わないと言い，“picturesque”は“age”“decay”に深くかかわると言って“the gradual alteration of beauty into picturesqueness as time operates upon a temple, a tree, or a man.”に注目した．また，Price は“picturesque”な事物の表を掲げているが，それには“Gothic cathedrals and old mills, gnarled oaks and shaggy

goats, decayed cart horses and wandering gypsies, the paintings of Mola and Salvator" などがふくまれていた. (Hipple は Salvator は "the sublime side of picturesqueness, farthest from beauty" だと注釈を付している.[8])

要するに, 上にみたような roughness, ruggedness, complexity, intricacy, variety, sudden variation, irregularity, age, decay, さらに光と濃い影のとり合わせなどが与える効果が "picturesque" なのである. 言うまでもなく, 黒いヴェールを牧師がかぶって現れたために平和な日曜日の朝の教会を混乱と動揺におとし入れることになったホーソンの絵は "picturesque" なのである.

R. H. Fogle は *Hawthorne's Imagery* において, ホーソンの文学の "picturesque" 性に一応注目だけはしていたといえよう. 彼の書物は次のような言葉で結ばれているからである.

> All values, all colors, light and darkness are interdependent, mutually supporting each other, but supported in turn by the absolute conceptions of pure light that stand at opposite extremes beyond the scope of the picture itself. Hester is defined by Dimmesdale and Chillingworth and Pearl, and each of them in turn is modified by the dark background of Puritan Boston. Phoebe is impossible without dark Hepzibah; Miriam depends upon the simpler colorations of Donatello, the model, and Hilda. The reality of Hawthorne's desire lies in the distinctness, the *realization*, which is also a necessary element of the picturesque.[9]

しかしながら Fogle も, ホーソンにおける "picturesque" について, 折にふれて言及してみるだけで, 深く解明してみようとはしなかった. たとえば, ホーソンが "The Custom House" の中で月光に照し出された室内を描写し, 室内の物体が月光の明るさではっきり見えるためかえって実質性を失って "things of intellect" になると述べている言葉を引用して, Fogle は次のような "picturesque" を素通りした論旨を展開するの

である.

> Much might be said here about the relation of this effect to Romantic doctrines of the imagination and of the picturesque, but for present purposes it is enough to note the distinctness and individuality of the objects seen and, conversely, their transmutation into pure meaning and symbol, "spiritualized by the unusual light."[10]

ホーソンにおける "picturesque" は, 論じる人がほかに全然いなかった訳ではないけれども, 多くのことがまだ未解決のままなのである.

II

ホーソンの時代までに "picturesque" はすでにアメリカにおいても問題になっていた. たとえば, "picturesque" はもともと風景画や庭園に関連して第三の芸術概念として問題にされたのであって, ホーソンが活躍する頃には, アメリカでも絵画において Washington Allston (1779–1843) のような柔和な自然の風景画にとって代って, Thomas Cole (1801–1848) や Asher B. Durand (1796–1886) といった Hudson River School と呼ばれた画家たちがアメリカの自然を "picturesque" に描いた絵を発表していた. ニュー・ヨークの Metropolitan Museum 所蔵の Cole の "The Oxbow of the Connecticut" や New York Public Library の Durand の "Kindred Spirits" などは, 光と影の強烈なコントラストやねじれた木, 折れた木を描きこんだ典型的な "picturesque" な風景画である.[11]

また一方, 美概念・芸術概念・自然に対する態度の観点から, Henry D. Thoreau は William Gilpin の著作 (旅行記や *Remarks on Forest Scenery* など) にも親しんでいた.[12]

ホーソンはいつ頃どのように "picturesque" を美概念として学び, その意味で "picturesque" という表現を用いだしたのであろうか. この問

に答えるのには資料の上で大きな障害があって，かなりの臆測が必要になってくる．

ホーソンの初期の作品には，ホーソン作であることが埋れてしまった作品もあると推測されるし，また破棄してしまったものもある．現存する作品だけに限ってみると，1828年に自費出版した *Fanshawe* が最も古い作品である．この作品はホーソンが Bowdoin 大学在学中（1821年—25年）に執筆されたと見なされているけれども，“ picturesque ”と形容してよいような情景や風景がいくつかありながらも，“ picturesque ”という表現は一度も用いられていない．このことから *Fanshawe* 執筆以後の時期にホーソンは“ picturesque ”という美概念を学んだのではなかろうかという大枠の臆測がなり立つ．

一方，*Fanshawe* 以外の現存する作品については，1835年に発表した四つの作品と，同年の Notebook 中の記録に“ picturesque ”という表現が見出される．そして，この年以降の作品や Notebook 中に“ picturesque ”という表現が散見されるようになるのである．だがなぜ1835年に“ picturesque ”という表現が合計五回も出現するようになったのかは明らかでない．Notebook の記事は明らかに1835年に書かれたものであるが，作品の方は刊行が1835年ではあるけれども，執筆がこの年であるという積極的な証拠はどこにもない．作品のうちの一つは S. G. Goodrich が編集発行していた年刊の *The Token* の1835年号に発表されたのであるが，*The Token* はクリスマスと新年の贈物用の雑誌として前年の12月に発行するならわしになっていた．従って，*The Token* にみられる用例は，明らかにその前年の1834年12月までに書かれていたものと言うことができる．

従って今の段階で言えることは，1825年の Bowdoin 大学卒業から1835年，もしくはその前の数年までの間に，ホーソンは何らかの形で“ picturesque ”について学んだのではなかろうか，ということである．このような“ picturesque ”の教育の有無を考えるのには，ホーソンの用例がその

ような教育をふまえたものであるかどうかを検討してみる必要がある.
1835年にあらわれた用例を列挙してみると次の通りである.
(以下, "picturesque" はイタリック体で示すことにする.)

A New England was then in a state incomparably more *picturesque* than at present, or than it has been within the memory of man; there being, as yet, only a narrow strip of civilization along the edge of a vast forest, peopled with enough of its original race to contrast the savage life with the old customs of another world. "Old News I" (*The New England Magazine*, Feb., 1835, *The Snow-Image, and Other Twice-Told Tales*, 1852)[13].

B The hills and hollows beyond the Cold Spring copiously shaded, principally with oaks of good growth, and some walnut-trees, with the rich sun brightening in the midst of the open spaces, and mellowing and fading into the shade,—and single trees, with their cool spot of shade in the waste of sun: quite a picture of beauty, gently *picturesque*. (*The American Notebooks*, June 18 th, 1835)[14].

C Ethan Crawford's guests were of such a motley description as to form quite a *picturesque* group, seldom seen together except at some place like this, at once the pleasure house of fashionable tourists and the homely inn of country travellers. "Sketches from Memory: Our Evening Party Among The Mountains" (*The New England Magazine*, Nov., 1835; *Mosses from an Old Manse*, 2 nd ed., 1854.)[15].

D As the evening was warm, though cloudy and very dark, I stood on deck, watching a scene that would not have attracted a second glance in the daytime, but became *picturesque* by the magic of strong light and deep shade. "Sketches from Memory III, A Night Scene" (*The New England Magazine*, Dec., 1835; *The Dolliver*

Romance, and Other Pieces, 1876[16]).

E The village was *picturesque* in the variety of its edifices, though all were rude. Here stood a little old hovel, built, perhaps, of drift-wood, there a row of boat-houses, and beyond them a two-story dwelling, of dark and weather-beaten aspect, the whole intermixed with one or two snug cottages, painted white, a sufficiency of pig-styes, and a shoe-maker's shop. "The Village Uncle: An Imaginary Retrospect" (As "The Mermaid," *The Token*, 1835; *Twice-Told Tales*, 2nd ed., 1842[17]).

この用例の中で，B, D, E は，明らかに，18世紀において "beautiful" "sublime" と並んで第三のカテゴリーとして論じられた美概念の "picturesque" をふまえているといえる．Bでは "oak" や "walnut-tree" に注目され，さらに6月半ばの "rich sun" に照し出された輝きと，その輝きと対照的な "shade" が描き出され，単なる美しい自然の風景ではなく，"gently picturesque" と明確に規定されている．Dにおいても，"strong light and deep shade" の極だった対照の故に "picturesque" だと正確に表現されている．またEでは，"rude" な家の "variety" のために村が "picturesque" だと言われている．

厳密に言えば，18世紀から19世紀初頭にかけて論じられた "picturesque" は，Gilpin, Price, Repton, Knight, Stewart などの論者の見解の間に微妙なへだたりがあった．W. J. Hipple はその差異を精緻に論じているけれども，上に掲げたホーソンの用例の検討には，先に Gilpin, Price, Hussey, Hipple などから抽出した一般的な性格を考えるだけで充分であろう．ホーソンの用例には ruggedness, complexity, variety, light と shade, decay などが押えられていて，明らかにかなりの教育がホーソンにあって，それにもとづいて "picturesque" という表現を使用していると考えられるのである．

III

1835年にあらわれた“picturesque”の用例が，明らかに18世紀から19世紀初頭にかけて論じられてきた“picturesque”をふまえたものであり，この事実が上に触れた1825年から1835年までの時期にホーソンにこの面での教育があったとする臆測に根拠を与えるとなると，その教育がいつ頃どのような形でなされたかの推測も，かなり具体的な答が出せるようになってくる．

1825年から1835年までの時期というのは，いわゆるホーソンの“Solitary Years”に属す時期である．Randall Stewart は Bowdoin 大学卒業から *Twice-Told Tales* を出版した1837年までを伝記の上での一時期とみなしている[18]．この時期にホーソンは読書と短篇の執筆に日を過し，やがて，二・三の雑誌に作品を発表しはじめ，生活のために *American Magazine of Useful and Entertaining Knowledge* の編集者となり（March-August, 1836），さらに，*Peter Parley's Universal History* の原稿をも書いた．

今注目に価するのは，この時期のホーソンの読書である．Stewart によれば，この時期のホーソンは文学作品を“circulating library”からかりて読み，その他の書物を Salem Athenaeum の図書館から借りて読んでいる[19]．この Salem Athenaeum からホーソンはある期間集中的に18世紀の作家・思想家・芸術思想家たちの著作をかりて読んだ，という事実があるのである．次に掲げる表は，この著作を借り出した順に並べた一覧表である．一見して明らかなように，この中には Burke をはじめ，“beauty,” “sublime,” “picturesque,” “taste,” などを論じた Kames, Stewart, Alison, Hutcheson の著作が入っている[20]．

Smith, Adam. The Theory of Moral Sentiments. London, 1792.

2v. Vol. 1, 2 March 23–March 29, 1827

Baxter, Andrew. An Enquiry into the Nature of the Human

Soul. London, 1745. 2v. Vol. 1 Apr. 12– Apr. 18, 1827

Kames, Henry Home, lord. Sketches of the History of Man. Edinburgh, 1788. 4v. Vol. 1 Apr. 23–May 4, 1827

_____ Elements of Criticism. Boston, 1796. 2v. Vol. 1 June 18–June 30, 1827

Stewart, Dugald. Philosophical Essays. Philadelphia, 1811. July 25–Aug. 7, 1827

Alison, Archibald. Essays on the Nature and Principles of Taste. Boston, 1812. Aug. 7–Sept. 24, 1827

Hutcheson, Francis. An Inquiry into the Original of our Ideas of Beauty and Virtue. London, 1738. Aug. 27–Sept. 1. 1827

Pope, Alexander. The Works of Alexander Pope. London, 1806. 10v. Vol. 1 Mar. 27–Mar. 29, 1828
Vol. 2, 3 Mar. 29–Mar. 31, 1828
Vol. 4, 5 Mar. 31–Apr. 2, 1828
Vol. 8, 9 Apr. 2–Apr. 5, 1828
Vol. 6, 7 Apr. 5–Apr. 7, 1828
Vol. 10 Apr. 7–Apr. 8, 1828

Burke, Edmund. Works. Boston, 1806–1827. 7v. Vol. 1 (Vindication of Natural Society; The Sublime and Beautiful; Political Writings) Nov. 15,–Nov. 30, 1828

この表に関して特記すべきことは，1827年の6月から9月にかけて，Kames の *Elements* から，Stewart, Alison, Hutcheson の著作を集中的に継続して読んでいることである．彼等は Gilpin, Price, Knight のように“picturesque”の花々しい唱導者ではなかったが，18世紀の思想家として，美概念・芸術思想に大きく貢献した人達である．中でも Stewart (1753–1828) はホーソンにとってすでになじみのあるスコットランドの思想家であった．Bowdoin 大学在学中の四年次の一学期と二学期（当時 Bowdoin は学年を三つの term にわっていた）に Stewart の *Elements*

of the Pilosophy of the Human Mind（1792年初版）を教科書として読んでいたからである.[21]

ホーソンが1827年の7月から8月にかけて借り出した *Philosophical Essays* は，1810年に出版した Stewart のその後の著作である．おそらくホーソンは Bowdoin 在学中にこの著書のことは何かにふれて聞いていたと思われる．Stewart のこの *Essays* は，哲学的論文と Taste 論とに大きく二分されていて，Taste に関する論文において，Stewart は18世紀の美概念・芸術概念としての“sublime”“beautiful”“picturesque”などを，Burke, Alison, Gilpin, Price 等について紹介・解説し，彼らのいわば総まとめを試みているのである.[22] ホーソンはこの Stewart の論旨にかなり関心をもったに違いない．先の表で明らかなように，8月7日にこの書物を返却するのと入れ違いに Stewart が言及している Alison の Taste 論（1790年初版）をかりうけ，9月24日までかり出した．しかもその間に，18世紀の芸術思想・道徳論に波紋を投じることになった Hutcheson の *Inquiry*（1725年初版）をかり出しているのである．

ホーソンがこの時期に借り受けた本は，一日・二日位のうちに返してしまうものが少なくなかったが，これらの作家の書物は，Kames や Burke の著作の場合と同じく，かなり長くかりている．明らかにホーソンはこの1827年—28年の時期に Kames, Stewart, Alison, Hutcheson, Burke を読んで18世紀の美概念・芸術思想を学びとったのである．先に見た1835年になってはじめてみかけられるようになった“picturesque”という表現は，このようなホーソンなりの教育を下地にして用いられているのである．資料的にこの教育の詳細を伺うことはできないけれども，ホーソンは18世紀の美概念・芸術思想を充分ふまえた上で“picturesque”という表現を用いたという事実は否定できない．また，この事実の故にこそ，たとえホーソンが“picturesque”という表現を用いていない場合でも，ホーソンの描写や構造・情況の視覚性・絵画性が“picturesque”であるというこ

との重要性は増すのである.

IV

しかしながら，ホーソンはいつまでも18世紀の美概念・芸術思想に留まっていたのではなかった. 1835年にはじめて“picturesque”という表現があらわれてから，この表現は次第に使用の範囲を拡げてゆき，やがては“sublime”に非常に接近していったのである. 与えられた紙数に限りがあるため，そのことは稿を改めて論じることにして，今ここでは，“picturesque”の教育の成果が拡がった結果を，*The Scarlet Letter* からはじまる四つの小説から用例をいくつかひき出して，眺めてみるだけに留めておきたい.

1 廃　　墟

Each succeeding century, in Rome, has done its best to ruin the very ruins, so far as their *picturesque* effect is concerned. . . .[23]

2 樹　　木

Nothing can be more *picturesque* than an old grape-vine, with almost a trunk of its own, clinging fast around its supporting tree.[24]

3 庭（夜間に月光に照し出された時）

With lapse of every moment, the garden grew more *picturesque*; the fruit-tree, shrubbery, and flower-bushes had a dark obscurity among them.[25]

4 風　　景

that peculiar *picturesqueness* of the scene, where capes and headlands put themselves boldly forth upon the perfect level of the meadow, as into a green lake, with inlets between the promontories.[26]

5 建造物（古いセイレムの家がたつ町並について）

(Its irregularity) is neither *picturesque* nor quaint, but only tame.[27]

6 服飾（ヘスターの衣服）

its wild and *picturesque* peculiarity[28]

7 人 物 像

A 小川に映し出されたパールの姿

a perfect image of her little figure, with all the brilliant *picturesqueness* of her beauty[29]

B ヒ ル ダ

In other respects, she was a good subject for a portrait, being distinguished by a gentle *picturesqueness,* which was perhaps unconsciously bestowed by some minute peculiarity of dress, such as artists seldom fail to assume. The effect was to make her appear like an inhabitant of picture-land, a partly ideal creature, not to be handled, nor even approached too closely.[30]

C 地下墓地の中で出会った Monk

The stranger was of exceedingly *picturesque,* and even melodramatic aspect. He was clad in a voluminous cloak, that seemed to be made of a buffalo's hide, and a pair of those goat-skin breeches, with the hair outward, which are still commonly worn by the peasants of the Roman Campagna.[31]

8 文体（ヘスターに関するピュー監督官の記録文書）

the *picturesque* force of his style[32]

9 芸術作品の性格

Twelve or fifteen years ago . . . all the arts of mysterious arrangement, of *picturesque* disposition, and artistically contrasted light and shade, were made available.[33]

10 物語（伝説）（物語の持つ雰囲気）

its legendary mist, which the Reader, according to his pleasure,

may either disregard, or allow it to float almost imperceptibly about the characters and events, for the sake of a *picturesque* effect.[34]

11 悪

a country where there is . . . no *picturesque* and gloomy wrong[35]

12 人間関係

There was then a knock at Moodie's door.

"Come in!" said he.

And Zenobia entered. The details of the interview that followed, being unknown to me—while, notwithstanding, it would be a pity quite to lose the *picturesqueness* of the situation—I shall attempt to sketch. . . .[36]

これらの用例のうち1—9が，先に触れた18世紀から19世紀にかけて論じられた美概念としての"picturesque"を充分正確に押えたものであることは歴然としている．しかし，10以下の例は，物語の与える印象，悪，人間関係の情況について用いた例である．もともと"picturesque"は，絵画あるいは自然界における具体的な事物の性格，および，それが与える効果を論じるのに用いられた表現であった．上記10以下の用例は，具体的なものから離れて比喩的に用いられているものである．ホーソンの用例にはこの種のものが少なくない．はじめに述べたように，ホーソンの文学の視覚性・絵画性は，たしかに"picturesque"と性格づけることができるが，ホーソンにおける"picturesque"は必ずしも視覚的なもの絵画的なものだけに限るのではないのである．

この点で特に注目に価するのは，12番の用例に見られるように，人間の関係が生み出す情況について"picturesque"を用いていることである．たしかに，この12番目の用例に視覚性がない訳ではない．この言葉を発した語り手（カヴァデール）は，"situation"の当事者ではなくて，"situa-

tion" を「見る」立場つまり，"situation" の外に位置する立場にあるからである．けれども，この見る立場は，他の用例にあるような具体的な事物を見たり，文体や芸術の性格づけを行なうような「見る」立場と全く異なっている．他の場合には，見ている事物や文章が自分の創造したものであれ，また，他人や神や自然が創ったものであれ，"picturesque" という性格・特色は変らないのに対して，人間がおかれている関係が生み出す情況の "picturesque" 性は，当事者のものではなくて，第三者として「見る」立場にある者のものだからである．当事者は自分のおかれている情況を，平凡なもの，日常的なもの，あるいは，悲劇的なもの，喜劇的なものと思うかもしれないが，決して "picturesque" だとは考えないのである．

このような人間のおかれている情況の "picturesque" 性を第三者として「見る」姿勢は，ホーソンの有名な "a spiritualized Paul Pry" の姿勢に外ならないのである．次の文章によっても明らかなように，この Paul Pry は輝きと影が織りなす人間の情況の "picturesque" 性の探求者なのである．

> The most desirable mode of existence might be that of a spiritualized Paul Pry, hovering invisible round man and woman, witnessing their deeds, searching into their hearts, borrowing brightness from their felicity, and shade from their sorrow, and retaining no emotion peculiar to himself.[37]

ところが人間の情況にはモラルがからんでいるのであって，人間の情況に求められる "picturesque" は必然的に "moral picturesque" になり，先に一言ふれたように，"picturesque" は "sublime" に近づいて行くことになるのである．このことについてはまた稿を改めて論じることにしたい．

注

1 Edmund Burke, *A Philosophical Enquiry into the Origin of Our Ideas*

of the Sublime and Beautiful ed. J. T. Boulton (London: Routledge and Kegan Paul, 1958), p. 124.

2 Leland Schubert, *Hawthorne, the Artist* (New York: Russell & Russell, 1963 〔c 1944〕), p. 8.

3 *Ibid.*, p. 8.

4 Cf. Edmund Burke, p. 124. Burke は "beautiful" と "sublime" を並べて次のように論じている.

Sublime objects are vast in their dimensions, beautiful ones comparatively small; beauty should be smooth, and polished; the great, rugged and negligent; beauty should shun the right line, yet deviate from it insensibly; the great in many cases loves the right line, and when it deviates, it often makes a strong deviation; beauty should not be obscure; the great ought to be dark and gloomy; beauty should be light and delicate; the great ought to be solid, and even massive. They are indeed ideas of a vast different nature, one being founded on pain, the other on pleasure. (*Ibid.*, p. 124.)

5 William Gilpin, *Three Essays: On Picturesque Beauty; On Picturesque Travel; and On Landscape Painting* (London, 1792), i, pp. 6–7, quoted in W. J. Hipple, *The Beautiful, The Sublime, and The Picturesque in Eighteenth Century British Aesthetic Theory* (Carbondale: The Southern Illinois U. P., c 1957), p. 194.

6 W. J. Hipple, p. 194.

7 Christopher Hussey, *The Picturesque: Studies in a Point of View* (London: Frank Cass, 1967), p. 14.

8 W. J. Hipple, p. 210.

9 R. H. Fogle, *Hawthorne's Imagery: The "Proper Light and Shadow" in the Major Romances* (Norman: U. of Oklahoma Press, 1969), p. 175.

10 *Ibid.*, pp. 6–7.

11 Cf. J. T. Flexner, *That Wilder Image; The Painting of America's Native School from Thomas Cole to Winslow Homer* (Boston: Little, Brown, c1962), pp. 39–76.

12 Gordon V. Boudreau, "H. D. Thoreau, William Gilpin, and Metaphysical Ground of the Picturesque," *AL*, Vol. 45, No. 3 (Nov. 1973).

13 *The Complete Writings of Nathaniel Hawthorne* (Large-Paper Edition), Vol. III (The Snow-Image and other Twice-Told Tales), p. 186.

14 Nathaniel Hawthorne, *The American Notebooks*, ed. by Claude M. Simpson (Columbus: Ohio State U. P., c 1972), p. 4.

15 *The Complete Writings of Nathaniel Hawthorne* (Large-Paper Edition), Vol. II (Mosses from an Old Manse), pp. 257–8.

16 *Ibid.*, Vol. XVII (Miscellanies), p. 289.

17 *The Complete Short Stories of Nathaniel Hawthorne* (Garden City, New York: Hanover House, c1959), p. 155.

18 Randall Stewart, *Nathaniel Hawthorne; A Biography* (New Haven: Yale U. P., 1948), pp. 27–44.

19 *Ibid.*, p. 27.

20 Cf. Marion L. Kesselring, *Hawthorne's Reading, 1828–1850: A Transcription and Identification of Titles Recorded in the Charge-Books of the Salem Athenaeum* (New York: The New York Public Library, 1949).

21 Randall Stewart, p. 17.

22 W. J. Hipple, pp. 284–302.

23 *The Marble Faun* ("The Centenary Edition" 小説からの引用はすべてこの版による.), p. 165.

24 *Ibid.*, p. 291.

25 *The House of the Seven Gables*, p. 213.

26 *The Blithedale Romance*, p. 84.

27 *The Scarlet Letter*, p. 8.

28 *Ibid.*, p. 53.

29 *Ibid.*, p. 208.

30 *The Marble Faun*, p. 63.

31 *Ibid.*, p. 30.

32 *The Scarlet Letter*, p. 37.

33 *The Blithedale Romance*, p. 6.

34 *The House of the Seven Gables*, p. 2

35 *The Marble Faun*, p. 3.

36 *The Blithedale Romance*, p. 190.

37 "Sights from a Steeple," *Twice-Told Tales* ("Everyman's Lib."), p. 139.